

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>【成果】① 全職員で学力向上の共通理解と共通実践を継続的に取り組み、児童の学ぶ意欲の向上や学力向上につながった。 ② 会議を精選したり、留守番電話サービス導入したりするなど、働き方改革への教職員の意識も高まり、時間外勤務時間を削減できた。</p> <p>【課題】① 心の教育推進のために校内体制を整えたり、児童・保護者・職員の豊かな心を高めたりする取組が必要である。 ② 特別支援教育の充実を図り、さらに個に応じた教育を進める。</p>
2 学校教育目標	自ら考え行動し いきいきと学ぶ児童の育成
3 本年度の重点目標	<p>【知】① 学習規律を整える。② 話し合い活動を通して考えを深める授業を展開し、児童の学ぶ意欲を高める。</p> <p>【徳】① 児童・保護者・職員の心の教育を充実するために、校内体制を整える。② 特別支援教育の充実を図る。</p> <p>【体】① 保護者と共に食育を推進する。② 望ましい生活習慣を身に付けるために、家庭での生活習慣に対する意識を高める。</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研究と学力向上対策評価シートのマイプランを連携させ、より取り組みやすくする。 ・校内研修で定期的にマイプランを振り返り、意識化を図る。 ・校内研究により、取組の促進を図る。							学習指導部【瀬戸・荒木】 研究推進部【杉原・緒方】
	○学習規律の確立 ・「か・つ・おタイム」の徹底 か・つ・おタイムの徹底 つ・おタイムの準備 お・お茶・おトイレ	○「授業が終わったら、片づけをして、次の時間の準備をしているか」、「授業開始時刻に着席することができているか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上	・年3回「か・つ・おタイム」強化週間を設定し、児童への意識化を図る。							
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 ○人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・道徳に関するアンケートを実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・学期に1回、低中高別の人権学習を実施し、人権に係るアンケートを実施する。 ・自己肯定感を高めるため、家庭と連携して、「お手伝いバグハグ大作戦」を学期に1回取り組む。							道徳教育推進教師【古川】 人権・同和教育担当【末次】 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校は楽しいか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上 ○認知したいじめの3ヶ月以内での解消率100%を目指す。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。							
●健康・体づくり	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動【志を高める教育】	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童70%以上	・各種体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行う活動を仕組み、自己の変容に気付かせていく。							健康指導部【野上・前田】 学校栄養職員 養護教諭
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「望ましい生活習慣の形成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上 ○「1～3年生は21時まで、4～6年生は22時までに就寝した」と答える児童が80%以上	・保護者への啓発を図るために「保健だより」を発行する。 ・食事の大切さを実感したり命や作る人への感謝の気持ちをもたせ、給食時間等を中心に学年に応じて指導を行う。 ・健康調査時に就寝時刻や朝食を摂ってきたかについて調べ、普段の生活習慣を見直し、健康的な生活を送ることができる児童を目指す。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議1時間以内を実行する。 ・学校や学年行事を見直し、組み合わせられるもの、縮小できるもの、削減できるものなど運営委員会を中心に考えていく。 ・業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。							企画会
	○教職員の連携促進	○「自己のタイムマネジメントをしながら業務にあたることができたか」「学年や部会で仕事の分担ができているか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員70%以上	・運営委員会や学年主任会で主任や部長に働きかけのことで協働意識を高める。 ・業務の負担に偏りがいないか、企画会メンバーで情報共有し、対応する。							
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	・特別支援担当者が学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者向けの通信を特別支援部より年5回程度発行し理解を図る。							特別支援部【新・佐々木】
○予防的・開発的指導	○基本的な生活習慣の実態把握と改善指導	○生活目標のうち「あいさつ」「安全のきまり」「無言清掃」を守れたと答える児童85%以上を目指す。	・委員会活動や代表委員会を通して、児童による啓発を行う。 ・生活協議会等で児童の実態を把握し、全職員で共通理解を図り、指導重点項目の徹底を目指す。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------